



やまゆり

学校だより

令和5年2月16日
85号
学校長 杉本賢二

校訓 「和の心」
学校教育目標 「社会に貢献しながら自立する生徒の育成」一気づき・考え・実行するー
校内研究主題 「WEBQUを活用し学級の安定と活性化を図る」

学校教育重点目標 「 より良い学校づくりのための連携 」

「学校関係者評価」を行いました

2月13日(月)に「学校関係者評価」を行いました。「学校関係者評価」は、保護者(前PTA会長)や学校評議員、教職員などにより構成された委員会で、学校の教育活動について意見交換等を通じて学校評価(自己評価)の結果等について評価することをねらいとして行われています。

本校の学校評議員は、杉本純哉さん、菅谷勝己さん、加藤源正さんの3名です。

主な成果としては、「生徒、保護者、教職員の努力によって14項目の評価に対して最低の項目でも97%の肯定的意見であることはとても素晴らしい成果だったと思う。今後も課題点を改善できるように努力を継続して欲しい。また、昨年度家庭学習に少し課題点があったが、帰りの会で学習予定を立てたり、ICTの活用によって大きく改善したこと、いじめや不登校等の問題を防止していることは、大きな成果だと思う」というご意見を頂きました。

主な課題点としては、「様々な努力によって「安定」した状態になっていると思う。しかし、同調や付度による浅い友人関係ではなく、生徒が自分の意見を主張し合う中で本当の友人関係を築いて欲しい」というご意見をいただきました。「子供たちが今後、高校、大学、社会人等で活躍するための資質・能力の育成を今後もお願いしたい」とのことでした。

頂いたご意見を今後の教育活動に生かします。ご協力・ご意見ありがとうございました。

校長・教頭・教務主任が参加

学校評議員の方々

学校評価に対する意見



学校教育目標 「 確かな学力の育成 」

「学習への動機付けを高める集会」をしました

2月13日(月)の放課後に、高校への内定を頂いている3年生4名から助言をもらい、1・2年生が期末テストや今後の「学習に関する動機付けを高める集会」をしました。この集会は、生徒と教職員の定期的な相談会で、「学習への悩み」が多かったことで企画されました。志望校から内定を得ている身近な先輩の言葉は、下級生の不安や緊張を低下させ、大きな励みとなりました。

下級生への貢献



- 晟之朗さん ・すべきことを優先させ、誘惑に負けない。
・具体的な目標を明確に持ち、努力して達成することによってやる気が向上する。
・大切な事に早く気づいて欲しい。
- 三佳さん ・授業中の積極的な発言と分からないことを質問することが大切。
・成果が出ると、やる気がさらに向上する。
・出来なかったテストの復習を必ずすること。
- 政宗さん ・勉強の仕方が分からず3年になって不安と後悔、そして焦りが大きくなった。
・社会と理科の基礎的な暗記を、整理と対策の練習問題で繰り返した。
・自分の事だけで精一杯だと学級の雰囲気も悪化する。勉強する環境への貢献も大切。
- 光史さん ・勉強をしないと不安になる。勉強の不安は勉強で解決するしかない。
・自分なりの教科の勉強法を見つけること。テストを分析して対策する。
・自分の事だけでなく、学級の雰囲気がとても大切。日常から良いクラスを。
・志望校によって受験する時期が違うので、他の人への配慮も大切。



学校教育目標 「 豊かな心の育成 」

「三年生に贈る会」への決起集会をしました

1・2年生が、2月14日(火)に「三年生に贈る会」への決起集会をしました。生徒会執行部が中心となり、「3年生に感謝の気持ちが伝わる」ことを第一に、取り組みの過程で「自分や男女、学年の壁」を乗り越え、主体性や集団の活性化をさらに向上させることを決意しました。

生徒会長のことば



グループで協議



自分の思いを各自表現



自分の思いを表現しながら、集団の活動に参加する



学校生活・学習・三贈会・部活動等での「非認知能力の5段階レベル」

「一緒に活動したいと思わせる」非認知能力・人間性がある

- 1 集団活動に参加するのが難しい。参加できないレベル。(ルール無視・逸脱行為等)
- 2 集団活動に参加しているが、動機が「自己愛」(承認欲求)や「自己本意」(好きなことだけ、好きなようにやりたい)で活動するレベル。
- 3 他者に従って活動するレベル。
(逸脱はしない。しかし、意見は言わない、役はしない等)
- 4 優等生・リーダーレベル。
(すべきことは一生懸命やる、しかし、できないことは他者や先生任せ)
- 5 人との関わりを楽しめ、自律的(自分で考え、判断)に活動できる超一流レベル。

(先生がいなくても自分で柔軟に判断し、変わりができてしまうレベル。裏方の仕事もその役目や大切さを理解して進んでやる。援助が必要な生徒にも自然と関わられる。人も自分も大切にし、活動が苦手な生徒にも敬意をもっている。他者から「一緒に活動したい」と思わせる力(非認知能力・人間性)がある。) 早大ではこのレベルの生徒から就職が内定する。

早稲田大学の河村先生からご指導いただいた「非認知能力」の2つの領域
早稲田大学レベルの認知力(学力)があっても、最後は非認知能力が重要として指導

「自己」に関する非認知能力

1 「自律性」 (河村先生によると自己に関する力では自律性が一番重要とのこと)

◎ 自分で考え、判断し、自分の意思で選択して行動する力

2 自己効力感・自己肯定感

- 自分の特性や能力に自信をもち、「たいがいのことはやればできる」と思える力
- 他者からも認められていると思える状態。

3 「グリット」

- 目標に向かって困難・失敗を乗り越えやり抜く力。※自己効力観・自己肯定観

4 「自己理解」「メタ認知力」

- 自分自身の状態や性質などに対して、的確な認識を持てる力。
- ※学習や部活動等で、目標と実力との違いを把握し、調整できる力。修正力。

5 「自制心」

- 自分の衝動を抑え、自分の行動をコントロールする力。
- ※例:やらなければならない事を優先して実行し、やりたい事は後でやる。

社会性・人と関わる非認知能力

1 「協調性」 (河村先生によると他者に関する力では協調性が一番重要とのこと)

- ◎ 集団の中で自らの居場所を見つけ、他者と互いに助け合いながら活動できる力。

2 「共感性」・「思いやり」

- 他者の困り感などを理解でき、自然に手を差し伸べて援助することができる力。

3 「規範意識」・「公共性」

- 集団を維持するためのルールや常識などを理解し守る力。

4 「道徳性」・「倫理観」

- 社会的に何が良くて、何が悪いかを判断する力。
- ※有名になっても、大企業でも、この観点を外すと大変なことになる。